

足立区立西伊興小学校（２年目）

【校長】 金田 耕一 【児童数】 601名 【学級数】 通常19学級 特支4学級



次の取組へ

【課題・改善】

- 研究授業を重ねることで、校内の体育科の授業が非常に活性化した。今後は日頃の授業でも継続し、教員による指導の差をなくしていく必要がある。
- 運動の多様な機会の創出や外部人材の活用により、運動の習慣化や体力向上に努めることができた。これらをスタンダード化し、持続可能な取組として次年度からも継続していく。
- 児童の生活に生かそうとする態度を持続させるために教師が学習の系統性や学校全体の取組を整理する必要がある。

目標

- ・運動やスポーツをすることが好きな児童（90%以上）
- ・できるようになるために、場を選択したり、方法を考えたり、計画できたりする児童（90%以上）
- ・健康に関して学んだことを実生活に生かせる児童（85%以上）

【成果】

- 研究授業を中心に日頃の体育の授業改善を行った結果、「運動やスポーツをすることが好きな児童」が96.2%と目標値を上回った。
- 研究主題である「学びをデザインする児童」の育成を目指し、個別最適な学びを追究した結果、「場を選択したり、方法を考えたり、計画できる児童」が91.1%と目標値を上回った。
- 春と冬に実施した体力調査における「運動やスポーツの大切さを感じる児童」が1.2%増えた。また総合評価のD+Eの割合が男女の平均値33.0%から25.5%と7.5%減り、A+Bの割合は10.7%増えた。
- 健康教育の推進により、「健康に関して学んだことを生かせる児童」は89.3%に増えた。

【実態・課題】

- ・「運動・スポーツをすることが好き」の割合は87.4%と高いが、学年が上がるにつれて低くなっている。
- ⇒体育的活動を充実させたり、魅力ある運動との出会いを工夫したりして運動嫌いを減少させていく。
- ・自己の学びに見通しを立て、学習方法が選択できている児童は85.2%である。
- ⇒児童一人一人に応じた学びが展開できる授業づくりを行う。
- ・健康に関して学んだことを実生活に生かしている児童は77.1%である。
- ⇒食育や保健の授業の充実を図る。

【取組】

- 体育・健康教育における授業改善
- ・昨年度に引き続き、「学びをデザインする児童」の育成を目指し、「個別最適な学び」を推進していく。
- ・今年度より、健康教育をより一層深めるため「食育」「保健」の充実を図る。
- 運動の日常化を図るための取組
- ・ロング中休みを設定し、様々な運動遊びに取り組む時間を設ける。
- ・スマイルペアを活用した異学年交流を通じた遊びを充実させる。
- 多様な人材を活用した健康教育
- ・食育や保健の学習内容を深めるために内部人材を活用したり、健康教育への関心を高めるために外部人材を活用したりしていく。

【取組（詳細）】

○体育における授業改善

児童一人一人の実態に応じた学びが進められるようにICTを活用したり、課題解決の方法を柔軟に選択したりできる授業を日頃から意識して行っている。児童が自分の学びに対して自己決定する場面を設定している。



体育における授業改善

○健康教育（食育、保健）における授業改善や取組



すすんで手を洗う1年生



給食メニューコンクール

研究授業とは別に、各学年で食育の授業を行った。食育では夏季休業期間中の自由課題として「朝食メニューコンクール」を実施し、その他にも栄養士が各教室を巡回する期間を設けた。保健では手洗いをする児童を増やすため、保健委員会が作成した「手洗いチェックカード」を作成し、全校児童に配布した。

○運動の日常化を図るための取組



ロング中休み

1・2時間目の授業開始時刻を特別時程にして普段の中休みの時間を2倍にしたロング中休みを設定した。室内と校庭で10ブースを展開し、教師が主導で児童が自由に選択して参加できるようにした。

○ゲストティーチャーを活用した健康教育



アスリートによる指導



パラスポーツ体験



地域の小松菜農園見学

トップアスリート派遣によるサッカー指導、ボッチャ体験、食育による地域の小松菜農園見学など、様々な外部人材の活用を行った。実際に児童が体験したり、インタビューをしたりすることで理解を深める契機とすることができた。